

【中国 岡山県総社市】

「菜園彩彩(さいえんさいさい)プロジェクト ～農業から地域が変わるまち 総社～」の進 捗状況について

平成25年2月26日

吉備野工房ちみち

1. モデル事業実施地域の課題

【実施地域の概要】



○【位置】

■人口構成

- ・男性 31,953人、女性 34,631人、計 66,584人
- ・高齢化率(男) 18.86%、高齢化率(女) 24.05%、**高齢化率(計) 20.67%**

■農業(主要農産物)

米(アケボノ、アサヒ)、ブドウ(マスカット、ピオーネ)、モモ(白桃)、セロリ、アールスメロン、とうもろこし、イチゴなど

■農家数と農家人口(平成17年農林業センサス)

総数 2,298戸、専業 454戸、第1種兼業 226戸、第2種兼業 1,618戸、総数 9,879人

【実施地域の課題】

■認定農業者等担い手の育成及び確保

農家数 2,298戸(認定農業者 122経営、特定農業 0法人、特定農業団体 0団体)

(課題) **農業従事者の高齢化、農業後継者不足**等により農家人口が減少するなかで、認定農業者を確保し、支援する必要がある。

■担い手への農地の利用(集積)

市内の農地面積 2,619ha、これまでの集積面積 318ha、集積率 12.1%

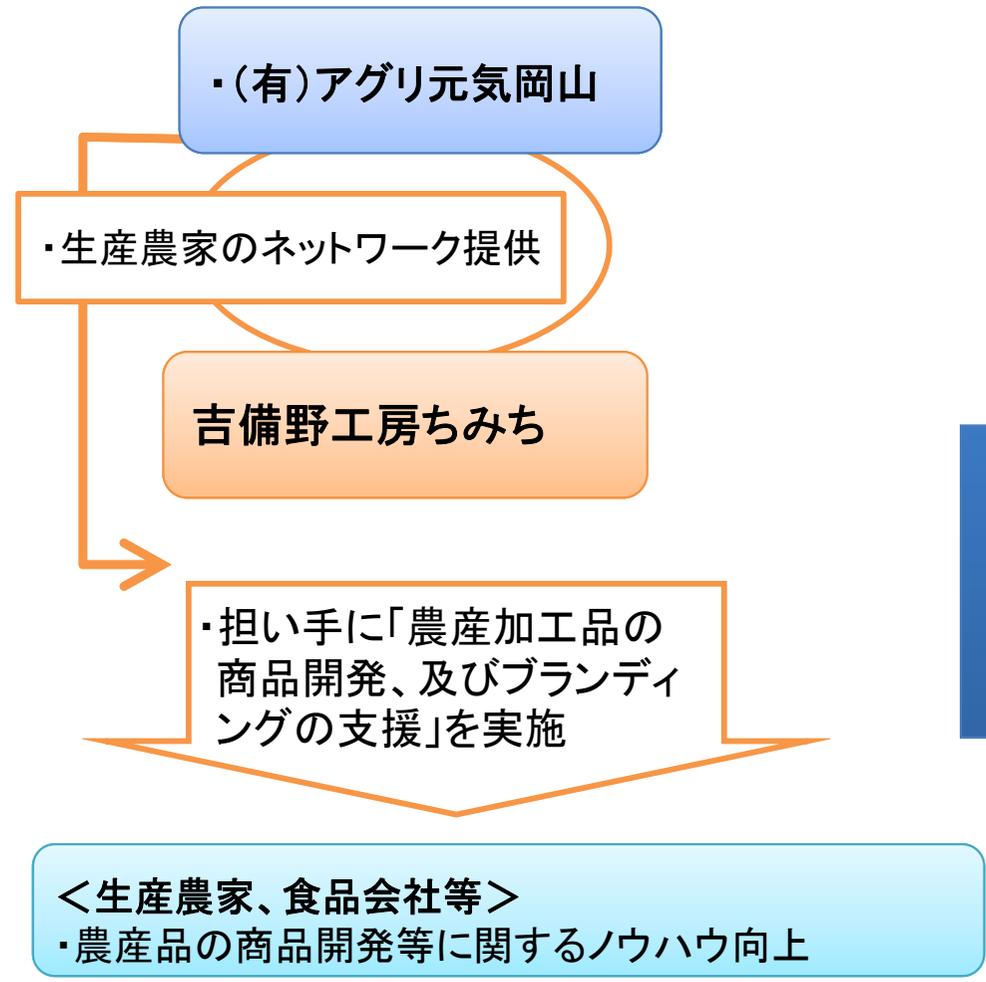
(課題) 農業従事者の減少、高齢化、不在村地主等による**耕作放棄地の増加(市内の耕作放棄地率 5.8%)**が、農地の有効利用を図る上での課題となっており、これらの耕作放棄地の解消を図り担い手等に集積する必要がある。

■総社市の地域経済の偏り

自動車関連部品を生産する工業から**農業を主体とした地域経済へバランス**をとる必要がある。(農業の6次産業化)

2. モデル事業概要

事業1



現時点でマッチング可能な販路、地・食
べ(地元スーパー等)、農マル園芸があ
り、まずは地元での販売、地元食品店
でのメニュー化を行います。売れる商
品という事実をもとに取り扱いたい中間
支援団体等を公募します。

また平行して、総社に来なければ食べ
られない、入手できないというプレミア
ム性で地域の活性化に結びつけながら、
農業従事者へ収益を還元し、それによ
り後継者問題の解消に繋げていきます。

次年度以降

・将来的には、担い手同士がつながり、高齢者福祉・農・食をテーマにした自主的な事業の展開を想定

本モデル事業を行うことにより、当該地域が抱える農業の後継者不足、(二次的には魅力ある地域特産品の開発)という課題を解決する事を目指している。

3. 各事業概要及び実施状況

①ビジネスモデル構築に係るコーディネート事業

「担い手」を対象に、次の支援を実施することにより、ビジネスモデル構築に関するスキルを提供する。

①専門家を派遣し、商品開発・ブランド化に関する助言・指導を実施する。

【ブランドの概要】

吉備野を中心に夢や希望という和(環)が広がり日本全体に元気が生まれる。そんな商品！

キャラクター「RENGE畑のKIBI-JI」

ちょぴり頑固で正直、思いやりのある「きびじい」

総社の農家の元気なおじさん

キャッチコピー

「まあ、食うてみんせい」「いいもんあるよ」「一生懸命つくりました」「暮らしに寄り添う」「本物の遺伝子を伝えます」



ナショナルブランドが持つ価格競争力に対して、地域ブランドで「買い頃感」を出し、地域住民に対して「きびじい」ファン(高くても買って頂ける客)作りをするノウハウを提供します。

②販路開拓に関するノウハウを提供する。

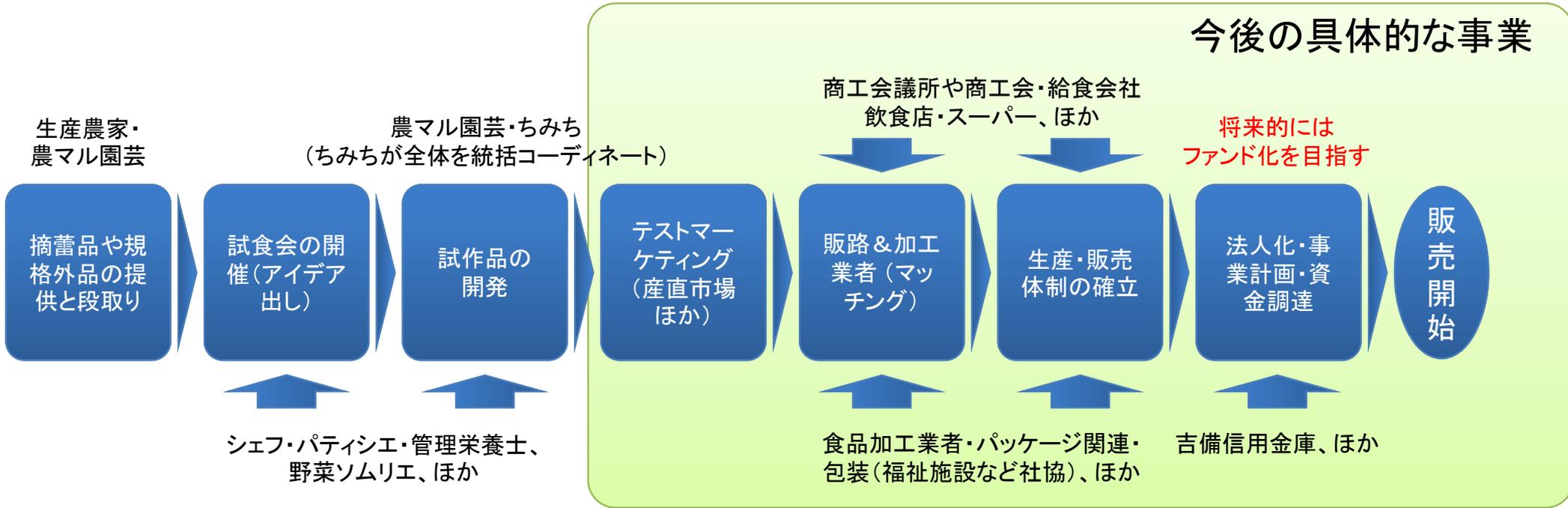
生産農家の悩みのひとつである、摘蓄品、間引き等を活用するビジネスモデルのため、大量生産や安定供給には向きません。そこを逆手に取り、地域限定、季節限定、少量生産、総社へ来なければ入手できない、食べられない、というプレミアム性により、付加価値をつけ、高くても買って貰える、仕組みとその販路を提供します。

それにより、生産農家の収益改善、後継者問題だけでなく、地域活性化にもつながり、地域経済への効果が期待できます。

4. 今後の予定

①ビジネスモデル構築に係るコーディネート事業

「地・食べ」が参画。農産物の提供と市内スーパーへの販路が拡大。



初年度に立ち上げた団体は、持続可能な体制の確立に向け、行政・企業・市民・大学などの、あらゆるステークホルダーにより「新しい公共」モデルとしてサポートを行う。

さらに、このモデル自体がプラットフォームとして継続的に機能し、運営できるような体制づくりを行い、モデル自体からも収益が上がる仕組みを模索する。

※「地・食べ」農業者をはじめ、営農組合や生産者団体、農協、農業公社、市などの代表者ら16人で構成。会長は、市の産業部長です。

試食会準備風景

商品開発アドバイザー



スタッフと



開発された試作品に対しての思いや、味のポイントとなっている部分などのお話を聞きながら・・・

食べて頂きたい人を想定し、安心・安全な食を提供する思いに共感しました！

試食会風景

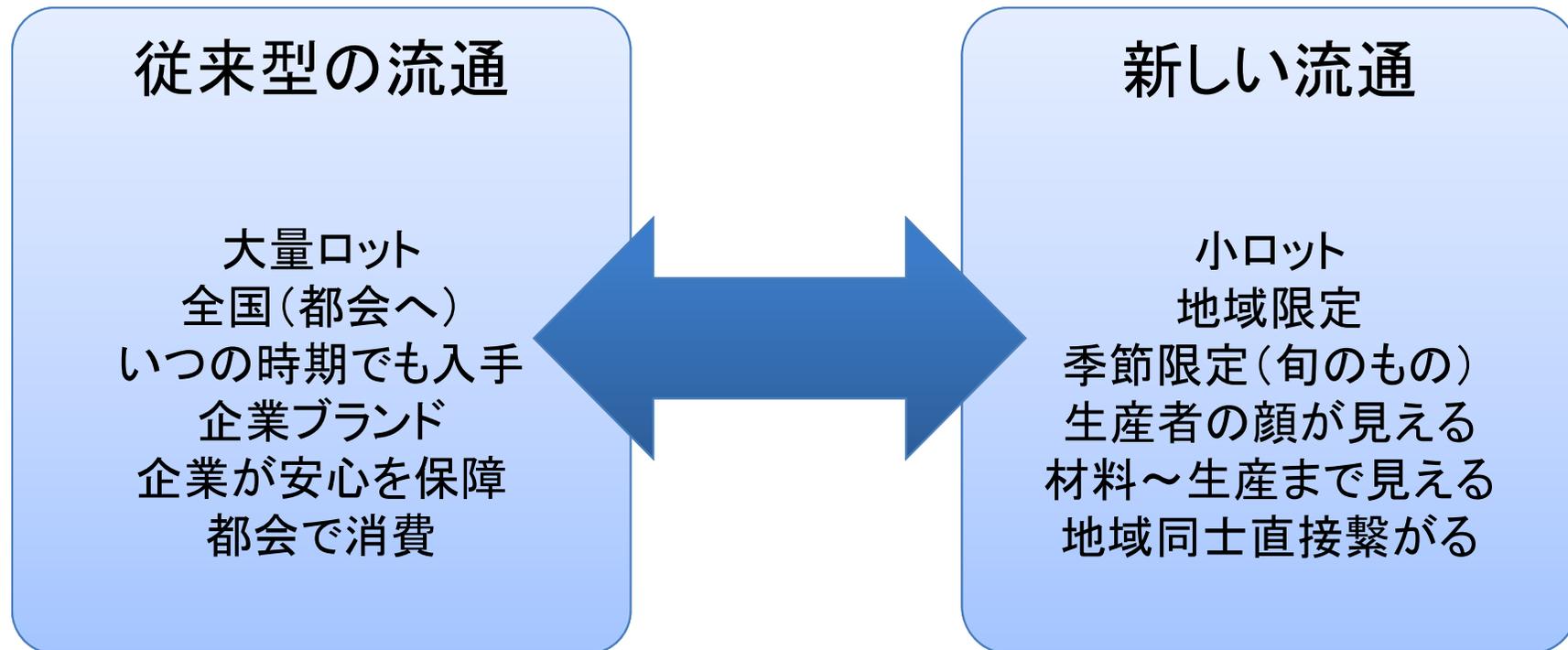
2012年12月05日第一回試食会



2012年12月19日第二回試食会



ちみちがモデル化したい 地域が輝く、新しい流通の形



身の丈で商品を開発することで、私たち地域住民が地域の価値を活かすことができる気が付いた！

そこで、住民の安心・安全や、耕作放棄地・農業生産者の課題や思いをも共有し、解決を皆で模索することができるコミュニティが醸成される。

3. 各事業概要及び成果

①「地元農産品を使った商品の開発」に係るコーディネート事業

間引きや規格外、摘雷品、を活用、農業の6次産業化を通じて商品開発を行い、新しい販路の開拓を模索。福祉施設のメニューに対するレシピ提案などを行なった。

例えば、福祉施設の給食への
レシピ提供

次年度以降の活動に繋げる

福祉施設などへのレシピ提供

施設利用者の給食やビュフェとして提供

総社市内の他施設への普及を模索

次年度の活動に繋げるための
テストマーケティングを実施

2月28日(木)、3月7日(木)・8日(金)
のいずれかでワークショップ開催を開催。

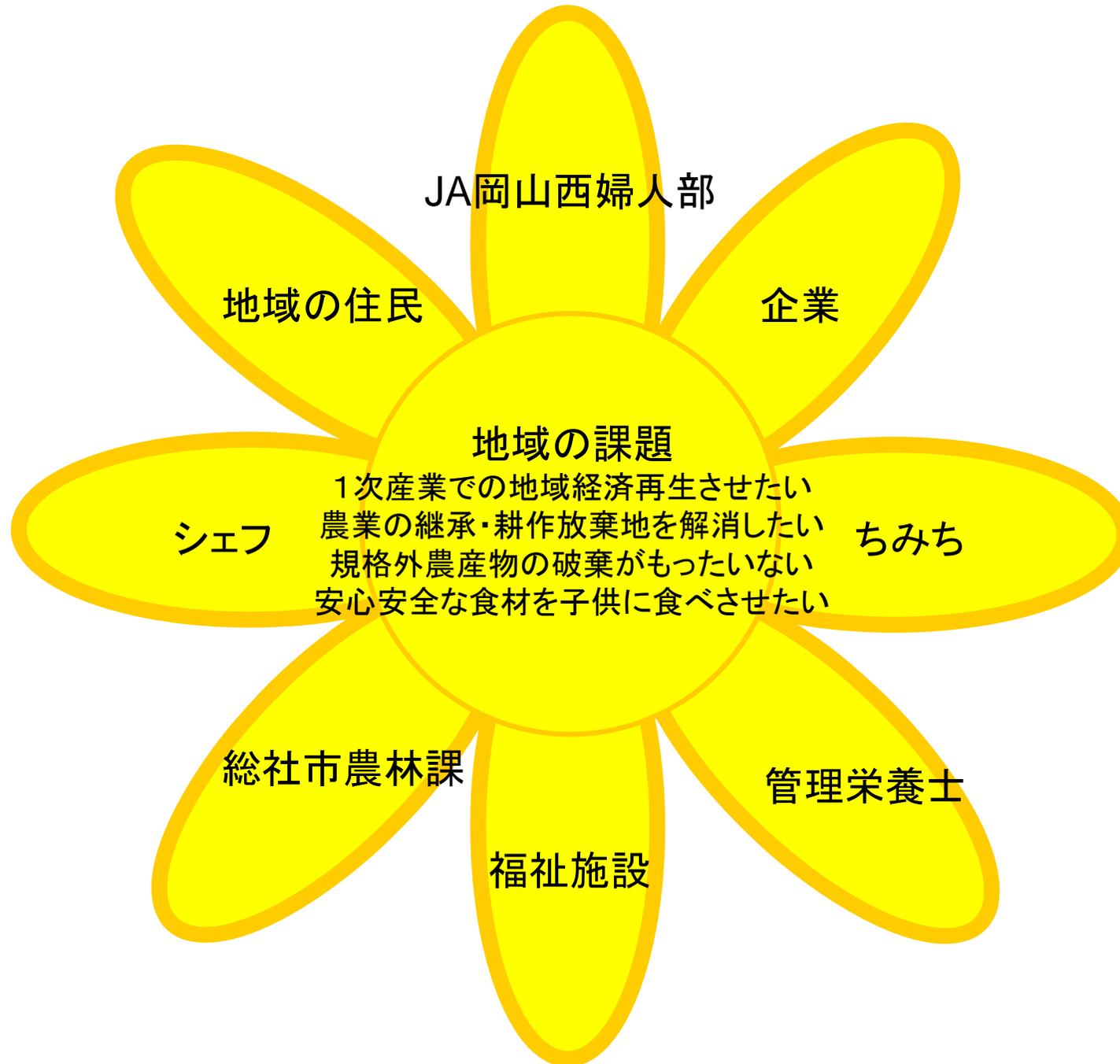
レシピ提供

地域の主婦を中心に集客

まず地域の人に体験してもらう

スモールビジネスの芽を育成

『食を通して繋がる命のネットワーク』

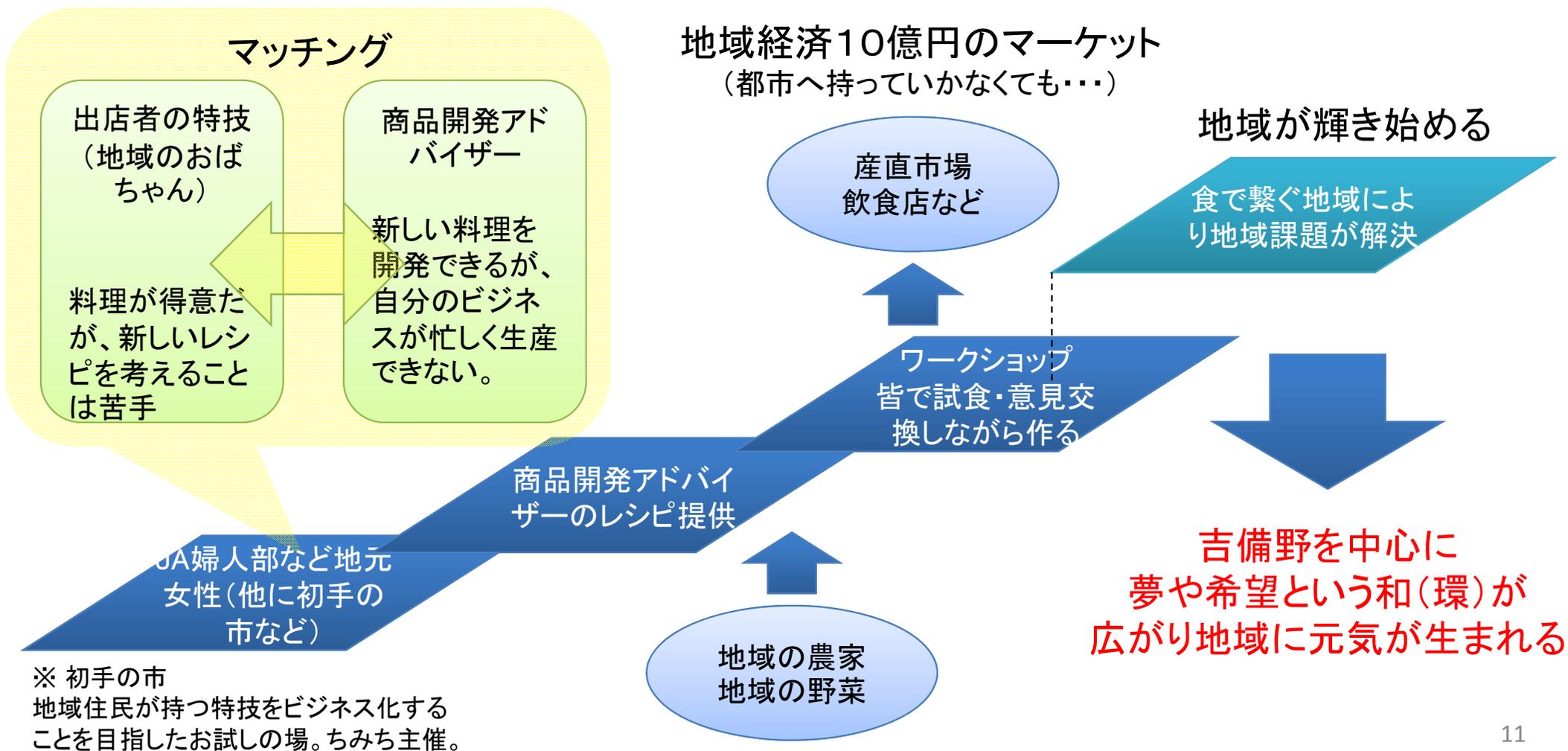


4. 今後の課題・予定

地域の女性が輝くスモールビジネスを創出

食材から生産までのプロセス全てに関わることができ、安心・安全な食を提供。
地域の女性に活躍の「場」と「キッカケ」を創出。

ワークショップから始めるスモールビジネスへの展開



この子達に明るい未来を



ご清聴ありがとうございました。